

萬福寺だより

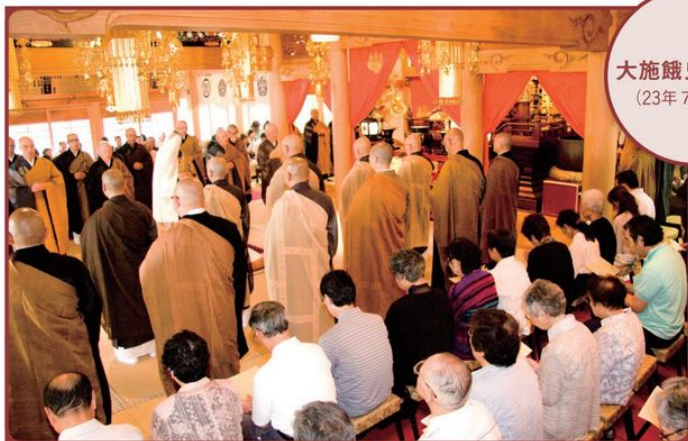
馬込から気持ちのよい風が吹いてくる

発行／曹洞宗 萬福寺護持会

2012年夏号／no.12／平成24年7月1日発行



盂蘭盆会法要
(23年7月13日)



大施餓鬼会法要
(23年7月23日)



我が家の菩提寺

萬福寺護持会 会長 波田野 鈴雄

我が家の菩提寺は曹洞宗慈眼山萬福寺である。ところが法事などでお宅は何宗ですかと聞くと、「えーっと、うちは何宗だったっけ?」という方が結構いるものである。平安中期以降、戦乱・天災等により、民衆は末法(仏道修行をしても効果がないとされる)の世におびえていた。鎮護国家の仏教であった当時の天台宗・真言宗からの自立を計り、栄西・道元が中国の宋から禅を伝え、浄土教・法華信仰も盛んになり、民衆の実践仏教となる新仏教が出現してきた。

鎌倉時代になると、浄土宗・臨済宗・曹洞宗・浄土真宗・日蓮宗等の宗派が出現した。念仏か、禅か、題目かのうちの一つの行を行なう仏教は簡単であり民衆のなかに溶け込んだ。故に、平安時代までの国家や貴族中心の「旧仏教」から「鎌倉新仏教」と呼ばれるようになった。なお、全ての開祖が比叡山で修行している。

曹洞宗では他宗の宗祖にあたる祖師を「両祖」といつて二人立てている。高祖の承陽大師道元・太祖の常済大師瑩山紹瑾で高祖は父、太祖は母にたとえられている。道元は禅の専修道場として興聖寺(京都府・永平寺(福井県)を建立し「法統(宗旨)の祖」といわれる。瑩山は下級武士や商人・農民の教化を行ない、1万5000寺といわれている今日の教団の礎を築いたので「地統(教団)の祖」といわれている。

以来、現在にまで及ぶ曹洞宗、その慈眼山萬福寺が我が家の菩提寺である。

